



社会福祉法人 薄光会 広報紙

ま

ら

め

ま



第 6 号



各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://www.k3.dion.ne.jp/~hakukou/>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成17年8月31日

社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、豊岡光生園：〒299-1742 千葉県富津市豊岡 3535-1 Tel 0439-68-1711

三 芳 光 陽 園：〒294-0825 千葉県安房郡三芳村上堀 280 0470-36-3211

鴨川ひかり学園：〒299-2854 千葉県鴨川市代 1297 04-7099-3311

湊ひかり学園：〒299-1607 千葉県富津市湊 934-18 0439-70-6551(デイ)

0439-70-6552(通所)

～風と語ろう～

『ミスターKの改革』

『御飯』『菜』『葉の味噌汁』『漬物』一切ね』

これが今から三十数年前の児童施設の献立。故鈴木前理事長から耳にしたことが出来る程聞かされた。子供達は瘦せ細り食べるといって飢えていた。とにかくお金がなかったという。

時が流れ、先人達の努力で県の補助金がつき、経済の成長とともに施設利用者達の生活は少しずつ豊かになっていく。贅沢はできないものの『良いサーブ』はやはり良い食事から『新鮮な質のよい食材を使い、おいしく料理を提供』してきた。

やがて国の財政は「こっちはいいこっちはいいかない状態」になり、福祉制度は措置から利用契約制度に変わっていった。そして二位一体の改革の基に障害者自立支援法案が示される。これから通所施設利用者は利用額の一割と食費の実費が自己負担となるという。風食一食

当たりの食材料費は国の基準約 三〇円。これに対して我が園の昨年度実績は四四円なの。

そこで抜本的対策を考えた。各付けて三身痛いの改革。利用者、職員、学園一の無責任男とわたくで痛みを分け合わなくては。



甘いおやつは肥満の元。お菓子を除き健康的なお茶のみと変更。焼肉、刺身なんでもってのほか、費用がかさむメニューを省いてしまおう。けれども、目標単価は遙か先。

お茶漬けの具からタニシを抜いて七〇円、カレーライス、肉を減らして十五円。



少しばかりの詰めでも目標達成まではまだ遠い。三三〇円は大規模入所施設だからこそ叶うこと。だがしかし、「コスト削減迫られ頭が痛い。

そこで更に考えた。究極のメニューは焼肉のたれ丼と刺身のつまの盛り合わせ。これは完璧、コスト大幅

削減達成だ。利用者の負担が軽くなるし胸をなでおろす。

えっ、何、そんなことしたら楽しみがなくなり、利用者は誰も来ないって。

んっ・・・残念。

(ニ) (ニ) (ニ) (ニ)



園だより

グループ旅行記(一)

今年度よりグループでの一泊旅行が本格的にスタートしました。四〜五名の利用者と職員。後半からは、保護者も同伴して旅行へ行くグループもあります。利用者に合わせて行き先、ルート、体験、観光。様々なことを頭に描きながら職員達は旅行の計画を練っています。

六月一日、二日。普段は自分の気持ちをなかなか言えずにいる小松さんの「行こう！行こう！」この言葉から伊豆旅行はスタートしました。

これまでの観光中心の旅行とは一味違つ、体験旅行を企画してみました。ハーブ石鹸作りや、バター・アイスクリーム作りを体験してきました。その中でも、利用者が一番興味を示してくれたのが石鹸作りでした。

石鹸作りは、石鹸の元とハーブオイルを袋に入れてこね、丸く形を整えます。できた石鹸に思い思いのラッピングをしていくものでした。

こねたり丸めたりするのは苦手の大草さんですが、ハーブの匂いに見せられてしまったようで、袋の中から香ってくる匂いを、何度も何度もかいていきます。



普段は、コーヒーの匂いにか、と言っているくらい匂いには無関心です。それなのに、匂いをかいでは「あー」と、喜びの声を上げていました。

テーブルに叩きつけ、長岡さんは本格的に石鹸をこねています。作り方をやって見せ、声をかけてあげれば、何とか一人で石鹸作りはできそうです。手でこねるよりも、テーブルに叩きつけることが楽しくて仕方が無いようです。「バン！バン！」音を楽しんでいきます。

小松さんは、片手が不自由ですがラッピングを上手に行っています。「どうする？どうする？次は？次は？」と積極的です。最後は「らべんだ(ラバンダー)と色鉛筆で書いてくれるほどお気に入りでした。(小松さんは字がかけますが、本当に伝えたいことが無ければ、どんなにお願いをしても書いてくれません)

たくましい手のひらで石鹸をこねてくれた小林さん。手を汚すことは嫌いです。手洗いも指先しか洗わないほどです。でも、握った感触が気に入ったのでしよう、指先だけではなくしっかりと手のひらも使ってこねてくれました。こねるだけこねたら、後は知らん振りでしたが、いつもは険しい表情をしていることが多い大野さんも、職員と一緒に石鹸をこねたり叩いたりしています。第三者からみたら、職員に『やらされている』と思われるかもしれませんが、でも、違います。きちんと石鹸を見てくれ



ていますし、表情もよく、笑顔が絶えないのです。時には力をこめている表情もしています。確かに、職員が手を添えなければ何もしてはくれないでしょうが、手を添えることで、何かをしているという意識をきちんと持ってくれているのです。

一人ひとり、同じものを作りながら、感じていることは様々です。それでも、何かを感じてくれれば、それだけでいいのです。

市販されているものとは比べ物にならないほどこぼこの石鹸ですが、世界にひとつだけの自分石鹸ができました。

(小野)



豊園新聞



「国は人のためにある」

最近の報道によると「人工透析と末期医療」の医療費削減を提唱する政治家がいるという。医療費が一番かかるという点から削減する考えらしい。医療技術の進歩が、「人工透析」という医療を実現し、本来ならば、過去において既に死んでしまったであろう人々が生命を維持し、働いて家族を守り、国・社会に貢献していられる。

腎臓機能障害が気質的なものか、感染症か、生活習慣病からか、過労のためか、その発症の原因はそれぞれであろう。関東の某市では、比較的、腎臓機能障害の方が多くと聞いている。地域的なものであるのか、働き者が多く、過労の結果かと考えると、この事実は実に悲しい。医療費の削減は診療報酬の引き下げか、自己負担を強いる形で迫ってくる。その影響をまともに蒙るのは一級、二級の内部障害者ではないか。二日に一度の透析を受けなければ、そのうち、尿毒症で間違いないようになる。それを受けにくくするということなのか。「透析患者」や「末期患者」や「障害者」は、お金がかかり過ぎるから早く死ぬというのだろうか。

「末期医療」については、この世のターミナルである。病に伏す方の、この世の最期を何故、安寧に見送ってあげられないのか。それまで家族を守り、社会に貢献してきたであろう人々は、この国に生まれた時から色々な税金を納めてきているはずではないか。

少子高齢化で財源がない。「子供は、国の宝だ」といっておきながら、わずかな児童手当、教科書の有料化も騒ぐ人々。労働力を求めて家庭婦人を勤めさせて経済参画させ、「オギャー」と生まれた時から死ぬまで税金を貢がせようとする国に子供が増えるわけが無い。税の根拠を求めて次々に法律を変えているようだ。

「人」は、財源を生むツールではない。どんなにきれいな事を並べても一部の官僚や政治家の無駄使いや垂れ流しは、後を絶たない。「人」をないがしろにしていくような改革、今までの怠慢に誰も責任をとろうとしない。「聖域なき構造改革」とは、神も仏も存在しないということであり、明らかに福祉という国家の使命は何処かに飛んでしまっている。対外的なODAは、外面をよく見せて、自家の家族にボロを纏わせて、ないがしろにする見栄っ張りの家庭をかえり見ない父親のようである。よそに回すお金はないはずであるのだが。

施設長 岡田 和夫

「思ふ所」

つい先日、豊岡光生園の開設二十五周年記念式典が行われ、湊ひかり学園では岡田施設長と私が招待されました。また、私はその席で、勤続十年の表彰までして頂きました。

今まで十年間、薄光会で仕事を続けてこれたのは、諸先輩方の御指導や同僚、後輩の協力は言うに及ばず、何よりも豊岡光生園、鴨川ひかり学園、そして、今は湊ひかり学園の利用者一人一人に助けられたお陰だと実感しています。皆さん、本当にありがとうございます。

――追伸――

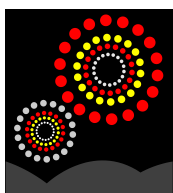
故前理事長 鈴木 栄 様

先生、湊ひかり学園は、今年の四月から新たに、児童のデイサービスを開設しました。

この建物の形、特に児童の利用者の方々には大好評ですよ。

先生は確か、一昨年の施設の立ち上げの際に「とんがりお屋根の、時計台が付いた建物がいいな」と言い、着工の話を進めて来られましたよね。先生はここまでお見通しだったのですか？ 私はそう信じて、これからもこの場所で頑張っていきたいと思います。

主任 山野井 聡



「今日の食卓 PART 1」

*昼食編

学園生活の中でほとんどの利用者が楽しみみの上位に挙げるものの一つ、昼食。今日もいい匂いが食堂から漂ってきています。

「いただきます」 皆、一斉に食べ始めました。

「うまい！ うまいぞー！」 物凄いオーラを発しながら、食べている方が約一名、そう、マーちゃんです。日頃、活動や余暇の時間は、常に人の三倍(?)は頑張っちゃうマーちゃん。食べるスピードも尋常ではありません。あつという間にたいらげたところで、まだしても何かオーラが漂ってきました。このオーラは何？ あつ！ これは「もっと食べるぞーオーラ」って事ですね！ 周囲の人たちはそのオーラをびんびんに感じていますが、当のマーちゃんは意外にも余裕の表情で何か考えています。「太っちゃうかな、やめようか？」 と決断して、腹八分でごちそうさま！ と踏ん切りをつけたのでした。

余裕でごちそうさまをしたはずのマーちゃんですが、まっ先に終わってしまったために皆が食べているのを眺める羽目になりました。マーちゃんは少し後悔し始めました。「でも、」 と思ったのでしよう。笑いながらも、食べている皆を見つめる事で、満腹感を得ようとムキになっている、けなげなマーちゃんでした。

*夕食編

先日、遠足で横浜みなとみらいに行ってきました。「ちよつとフクフク夕食編」 どうぞ！

野菜が苦手なハルちゃん。今日のごちそうはコースで出てきます。まず、前菜は野菜でしたが、悩みつつもペロリ。それでも出てこないメインデイスシユ。「も〜我慢出来ない！」 葉っぱのサラダしか出てこないと思ったハルちゃん。あくあ、お母さんのサラダもバクバク、パンも二個ムシヤムシヤ、メインが出てきた時にはグブツ、お腹いっぱい！ 大好きなお肉を前にして、後悔……。でも、最後には少しだけやけ食い！

対照的なのはケイちゃん。ここぞとばかり、お母さんに甘え、大好きな唐揚げを単品注文。お皿を抱え、ペロリとたいらげながらニヤリと笑い、「野菜食べなくて済むから、これからは単品注文しよつと！」 したたかさを身に付けたケイちゃんでした。

「学園歌完成！」



湊ひかり学園の学園歌が完成しました！ 作曲は進藤利夫さん、作詞は峰よしをさんによるものです。お二人とも富津市在住の方です。曲調はゆ

ったりとした覚えやすいメロディラインの曲で、数回聴いただけでメロディを口ずさんでいる利用者も何人かいました。行事等の際には皆で歌うことが出来るよう、頑張って練習していきましょう。

一 ひかり煌めく 朝霧若葉

みどり風吹く トンガリお屋根

胸に希望を いっぱい詰めて

君と僕との この笑顔

みんなで歌おう 元気よく

ひかり学園 愛の歌

二 みなと長浜 学園広場

碧いキャンパス 大きな空に

夢を描こう 真の教え

のびる若木よ それぞれに

みんなで歌おう 元気よく

ひかり学園 愛の歌

三 白い山百合 咲いてる小径

こころ豊かに 人とのみちを

手と手つないで 幸せつかむ

君と僕との 生きがいを

みんなで歌おう 元気よく

ひかり学園 愛の歌

三芳光陽園

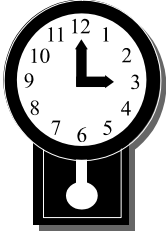
光陽

『三芳光陽園開園十五周年を迎えて』

平成十七年六月十日、三芳光陽園開園十五周年の会食会を行いました。山崎理事長、法人本部および各施設から施設長と数名の利用者にもご参加いただき、津軽三味線の演奏を聞きながら、入所者共々、楽しい時間を過ごすことができました。

平成二年に入所者五十名で開園してから十五年、一六九名のお年寄りが入所され、一〇名のお年寄りが何らかの理由で退所されていた中で、開園時から在籍されている五名の方がいらっしやいます。

今回の席で、六名の職員（内二名は、四月からの給食業務の外部委託に伴い委託業者の社員となっています）が勤続十五年ということで法人より感謝状をいただきましたが、本来感謝すべきは、この五名の入所者たちであると思います。この皆様がおられてこそ、素人集団であった私たちが、開園時の入所者処遇の問題や職員間の問題を解決し、「措置から契約へ」という福祉の新しい流れ、介護保険制度を乗り越え、今日のこの日を迎えることができたのだと思います。紙面を借りてお礼を言いたいと思います。



私はこの十五年間、法人から働く場をいただき、勤めさせていただきました。二十年勤続を目指していきたくはありますが、私たちの後に続く二十年、三十年勤続者を生み出していければと思います。施設を取り巻く環境は十五年前とは比べられないくらい変化し、先が読めない時代です。そんな時代でも、しっかりとしたビジョンを持ち、入所者を見つめた処遇を確立していけるような人材を育てていけたらと思います。それが私の三芳光陽園入所者への恩返しです。

次長 落合 勝寛



『心のオアシス』

六月十日。光陽園の玄関にジュースの自動販売機が設置されました。これで午前、午後のお茶の時間以外にも、利用者が好きな飲み物を自分で選んで飲めるようになりました。

次々と自動販売機の前に連れていかれる利用者たち。中には自動販売機自体に触れる機会が少なかった方もおり、

「このボタンを押すの?」

「ここからジュースが出てくるんだあ!」と驚く方もいました。

体調を崩されてから、ベッドでの生活を送るようになった永嶋さん。気分転換の為、自動販売機の前に誘ってみました。永嶋さんは好き嫌いがはっきりされていて、好みではない飲み物は飲もうとされない方です。

車椅子に乗った永嶋さんに自動販売機のボタンを一つ一つ指差し、どれが良いか尋ねてみました。しかし、表情は変わりません。

「だめかなあ」と思った時、嬉しそうにならずボタンがありました。『野菜生活』です。

永嶋さんがこの飲み物の味を知っていてうなずいたかは分かりませんが、名前とは裏腹に甘い飲み物であったので普段以上にゴクゴクとのを鳴らして飲まれておりました。ついこの前まで、食事が口から入らず、医者からは胃ろうを勧められていた方だけに、驚きと感動をおぼえました。

これから夏本番です。ジュースの自動販売機が利用者の心のオアシスになることは間違いないでしょう。

介護員 石井 修平

空き缶はくずかごへ!



ひかり通信

『地域の中へ』



私が小さい頃(約二十年前)は、テレビゲームもありましたが、よく外で遊んでいました。

中でも楽しかったのが、ザリガニ釣り・クワガタ捕りです。利用者の方々も同年代の方が多いので、同じように思っている方がいるのではないかと、思いました。

そこで、散歩をしながらいろいろ探してみたのですが中々見つからないのです。こんなに田んぼに囲まれているのに。

こんな時は、地元の方に聞くのが一番と思い、散歩で会う人会う人に聞く事にしました。

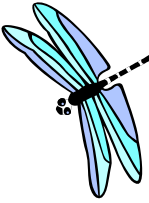
「懐かしいねえ、でも薬を使っているから最近は見ないねえ。」と、異口同音の答えが返ってきましたが、

「〇〇神社のところに昔はよくいたよ。」

「幼稚園の裏あたりで見たよ。」

「〇〇寺の所にいるんじゃないか。」との答えも。

さすが！地元の方達。地元じゃないとわからないような所を教えてくださいました。



今では、釣竿を持って歩いていると、

「釣れるといいねえ。」

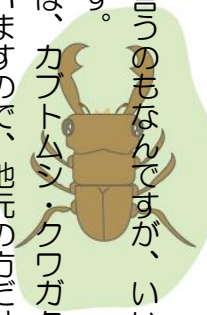
「釣れたかい?」と、皆さんが声をかけてくれます。

私が言うのもなんですが、いい光景だなあと、思います。

今度は、カブトムシ・クワガタ情報を集めたいと思いますので、地元の方だけでなく皆さん協力をお願いします。

(また、私事だったかなあ・・・)

佐々木



『お菓子班での関心事』

「今日は、アップルパイを作ります。」

「はい」と返事をしたのは、我がお菓子班の班長ともいえる、堀江さんです。

まずは、リンゴの皮むきです。濡れタオルでリンゴを拭き、回転皮むき器へセットし、彼女の前へ置きます。すると、さっと腕まくりをし回転レバーに手をかけ、クルクル回すとあっという間にリンゴのかわがむけました。



それをカットする方、卵を割る方と作業が進んでいきます。

突然、悲鳴に近い声で

「すいませーん。」と堀江さん。

どうやら、ボウルの中に卵の殻が入ってしまったようです。それでも、自分で何とか殻を取り出そうと頑張っています。

暫らくして、ようやく殻を取り出し

“ほっ”とついています。

最初の頃は、卵を割る力加減が判らず、グシャッと潰してしまっただのですが、何度も何度も卵割りをしていくうちに、驚く程上手になりました。

「ひかり学園喫茶室をオープンさせよう!」

という夢が、無茶なことではないようです。

輝かしい”未来のパーティシエ”に乾杯!

鈴木



~ちよつと、いつぶく~

『われら 何をもって 玄人たらんや』
プロ

鳥居 博明

ふと思いついて、久しぶりに漱石を読み返して
る。

山道を走りながら、こう考えた。

智に働けば角が立つ。情に挿せば流される。意
地を通せば窮屈だ。とかく福祉の世界は住みにくい。
住みにくさが高じると、安いところへ引きこもる
なる。

どこへも越しようがないと悟った時、不人情の世
界を変えてやろうとする使命が生まれて、理念とい
う絵ができる。福祉の世界を作ったものは神でもな
ければ鬼でもない。やはり向う三軒両隣にちらちら
する唯の人である。唯の人が作ったのだから、たく

さんの不具合も出よう。福祉の仕事を生業とする以
上、不具合を手直ししようと思えば凝らし、世にそ
の是非を問うて意見を聞き、日々の業務において自
ら精進しなければ、人ではないになるばかりだ。

この世界において食すること二十五年、住むに甲
斐あるところと信じてつとも、人生の悲喜、明暗は人
智の及びがたきところありと知り、すなわち天命で
あると悟った。時に人の熱き想いに触れ、知的障害
者の純粹なる精神に感化されて、日常の猥雑さのな
い非人情の世界にいさなわれ豊かなる心持ちに酔
いしれるも、一炊の夢の如くにたちまち不人情の世
界に引き戻される。根を詰めれば身が持たぬ。投げ
出してしまえば道が立たぬ。金は大事だ、大事なも
のを目の色変えて追いかければかえって桃源郷は
遠のくばかりだ。……

考えがここまで漂流してきたときに、漱石の『草
枕』は、げさりと手から落ちて、自分は酔いつぶれ
たのだった。

(平成十七年七月十五日)

障害者自立支援法衆議院可決の日)

※それから……

障害者自立支援法は衆議院の解散に伴い、廃案と
なりました。

《編集後記》

きらめき第六号、いかがでしたか。

盛夏は過ぎたといえ、まだまだ暑さは続きそう
です。皆様もどうぞお体に気をつけてお過ごしくだ
さい。
(法人広報委員会)